

松本則子さん(人形劇団クラルテ)が選んだ「私の好きな 10 冊」

資料	コメント
おおきなかぶ A.トルストイ/再話 福音館書店 1966.6	おじいさんの植えたかぶが大きくなりすぎて、おばあさんと娘さんと犬とねことねずみまで一緒になってやっとかぶが抜けるというお話。一番好きな本です。佐藤忠良さんの絵が最高で、奥が深い。この絵本で 90 分の講座をしています。
子どもへのまなざし 佐々木 正美/著 福音館書店 1998.7	幼児を対象にした人形劇を創るという職業柄、幼い子どもの事が気になる。そんな子ども達への温かい理解がすばらしい。
てつがくのライオン 工藤 直子/著 1982.1	「哲学するライオン」がいたり自分のしっぽによびかける「へびいちのすけ」がいたり、メルヘンが半端じゃなくすばらしい。こういう感性で生きたいと思う。
盆まねき 富安 洋子/著 偕成社 2011.7	本分も素敵で面白かったけれど、なんといっても筆者のあとがきに心を打たれた。戦争がいけないと声高には一言も言っていないけど、戦争はいけないと体に入ってきます。
壬生義士伝 浅田 次郎/著 文芸春秋 2000.4	日本の歴史小説。南部地方盛岡藩の脱藩浪士で新選組隊士の吉村貫一郎を題材とした時代小説。新選組ものでは一番面白かった。

松本則子さん(人形劇団クラルテ)が選んだ「私の好きな 10 冊」

家庭料理のすがた 辰巳 芳子/著 文化出版局 2000.1	おばあちゃんに料理について教わっているような気がします。「へえー」と思いながら読んで「ふーん」と感心しています。
植物図鑑 有川 浩/著 幻冬舎 2013.1	思わず拾ってしまったイケメンとの恋愛。なんともさわやかな、おそらく世の女性好みの本だとは思いますが。人に対してかく優しくできたらいいなと思います。
父と暮らせば 井上 ひさし/著 新潮社 2001.2	実際の被爆者の言葉をもとに書かれたお話。二人芝居になっている。読むより劇で見るほうがおすすめなのですが。井上ひさしをどうしても一冊いれたくて。
おんなのことは 茨木 のり子/著 童話屋 1994.8	茨木のり子さんの詩集です。そのなかの「自分の感受性ぐらい自分で・・・」が一番好きです。「わたしが一番きれいだったとき」は戦争時代だったという詩も考えさせられます。同じ女性として茨木さんの生き方に共感し、示唆を受けます。
100 万回生きたねこ 佐野 洋子/作 講談社 1977.10	理屈じゃなく面白い。スケールの大きなありえない事だけど、最後はなんともうらやましい愛が素敵です。